

令和7年度第2回山形市男女共同参画センター運営委員会会議録

日 時 令和8年2月20日(金) 14時00分～15時25分

場 所 山形市男女共同参画センター5階 視聴覚室

I 出席者

【委員】佐藤慎也委員長、横尾峰子副委員長、山科典子委員、阿部由希委員、川合芳光委員、長尾景子委員

【事務局】伊藤企画調整部長、高橋男女共同参画センター所長、遠藤副所長、板垣係長、後藤主査、佐藤運営事務員

II 傍聴者 0名

III 会議

- 1 開会 板垣係長
- 2 企画調整部長あいさつ 伊藤部長
- 3 委員長あいさつ 佐藤委員長
- 4 議事
 - (1) 報告
令和7年度事業進捗状況について 事務局
 - (2) 協議
令和8年度事業計画(案)について 事務局
- 5 その他
- 6 閉会 板垣係長

【審議経過】

4 議事

(1) 報告

令和7年度事業進捗状況について、事務局から資料に基づき説明があった。

(委 員) Girl up!について、同じ制服の参加者が多いように見受けられるが、キャリアアップについて特に力を入れてる学校とマッチングし参加に至ったのか、実際チラシを見て個人で応募して参加されたのか教えていただきたい。

(事務局) Girl up!の参加者募集にあたっては、山形市内在住の女子高校生であれば申込可能としたが、待っているだけでは集まらないような状況であったため、職員が市内学校を中心に直接出向いて事業の紹介をして、参加に至った方やチラシを見て直接申し込んだ方もいた。

なお、参加者の高校別の内訳としましては、山形西高が2名、山形中央高が2名、山形商業高が9名で合計13名という内訳となっている。

(委 員) 山形市の男性職員の育児休業について、数年前に比べ、今はかなりの職員の方が取得されていると思うが、やはり上司の方の一言が数値にも影響し、遠慮なく取得できるようになるのではないか。実際、育休を取得した市職員の上司のインタビューもホームページに掲載されているとのことで見たい。

男女共同参画に関するwebアンケートについて、どのくらい回答数だったか。

広報やまがたにおけるファール相談室のページが以前より大変見やすくなったため、相談者が増えたのか教えていただきたい。

Girl up!について、男子高校生も参加させて、女子高校生がどのように考えているのかなどを知ることにより、男性の認識も全然変わると思うがいかがか。

(事務局) 男性職員の育児休業取得について、山形市では、市長から配偶者が出産した男性職員には必ずお祝いとともに、育休取得の計画を尋ねます。さらに、男性職員の所属長も同席するので、所属長へは職場での配慮をするよう伝えるといった仕組みがあるので、このような取組の効果が表れてきたものと考えている。

web アンケートについて、368名の方からご回答いただいた。

ファースト相談室について、相談の時間帯などは特に変わらないが、今年度、相談室のレイアウトを少し変えて、スペースを有効に使えるようにしたところ、ゆったりとした雰囲気の中で、気兼ねなくご相談いただける環境が提供できているのではないかと思います。今後も改善しながら、よりよいご相談の機会を提供できるようにしたいと考えている。

Girl up!について、女子高校生の取り組みを女子高校生だけで終わらずに、男子高校生も含めて広く発信していきたいと思い、今年度の取り組みを動画にまとめ、広く発信していきたいと考えている。

- (委員) Women's Campus 山形の参加者であるが、参加者同士の交流の機会も増え、充実した活動を送っていると感じる一方で、Women's Campus 山形の活動がまだ知られていないというのは強く感じている。もっとたくさんの女性から事業に参加していただきたいし、一緒に活動したいと思うので、情報発信をともに頑張っていければと考えている。
- (事務局) Women's Campus 山形の活動に参加する方も、少しずつ増えている状況であるので、ご興味があれば遠慮なく自主グループに加わっていただき、さまざまな形で事業に関わり、その輪が今後広がっていくように、情報発信をしていきたいと思っているが、なかなか行政だけでは考えや方法も及ばないところもあるのが現状である。今年度活動してくださった方で、とても広がりを持っているSNSで発信していただいたところ、参加者が多かったというお話も伺っているので、参加された皆様の声を、民間の自由な発想をお借りしながら情報発信していければと考えている。
- (委員) 若い世代が見ているのは皆さん共通であることが、最近よくわかってきたので、そういったところに繋がるような仕掛けも必要ではないかと感じる。そういったものがあると、みんなが繋がっていけるといろんな世代、いろんな方々に届くようになるのではないかと。
- (委員) Web アンケートについて、先着何名様に景品を差し上げますとしていたかと思うが、実際どのくらいの方が取りにいらっしまったのか。一行詩の事業においては、副賞がなくなったら募集作品が減ったという話もあったので教えていただきたい。
- (事務局) アンケートにご回答いただいた方のうち、100名前後の方が景品の備蓄水を受け取りにいらっしまった。回答者数が300名を超えたのも景品贈呈の効果が多少なりともあったと思われる。

(2) 協議

令和8年度事業計画(案)について、事務局から資料に基づき説明があった。

- (委員) 情報紙ファーストについて、過去に発行した分は貴重な資料になると思うので、バックナンバーとして保存される予定なのか伺いたい。
- (事務局) 過去に発行した分は、紙媒体の状態ですべて保存している。直近の5年分はデータでホームページにも掲載しているので、どなたでもご覧いただける状況にある。それ以前のは、必要ときに窓口にお声がけいただき、ご覧いただくことは可能である。
- (委員) 過去発行分をそのままデジタル化というのは、個人情報等の基準なども変わり対応は難しいか。
- (事務局) 担当課によっては、過去発行分すべてを掲載しているところもあるようだが、さまざまな確認事項もあることから、確認も何もせず掲載ということがないように今後とも注意しながら可能な範囲で掲載していきたいと考えている。
- (委員) 以前の基準だと良くて、今の基準だと難しいということもあるかと思うので、十分気をつけていただきたい。一方で、足跡もわかるようになっていって後で確認できると思うので、過去分の掲載についてもご検討いただけるとありがたい。
- (委員) ファースト市民企画講座の事業終了について、今年度開催した団体の市民企画講座に初めて参加したが、受講者が満員で、とにかく熱くて面白い講座であった。このような企画はなくせずに、募集方法なども見直し、継続したほうが良いのではないかと。
- 一行詩作品募集について、大学生に声がけしなかったため応募者が少なかったのか。応募者が少数のため、事業終了というのは寂しいものがある。
- (事務局) 市民企画講座について、近年、お申し込みいただく団体が減っており、なおかつ複数年にわたり採択されている団体のみとなっている状況であることから、市民活動のきっかけづくりという点では一定の役割は果たすことができたのではないかと考え、事業終了に至った。
- なお、今回採択された団体には、登録団体としてセンターの積極的なご活用を勧めているほか、

山形県における地域創生についての類似の事業などの補助制度のご紹介をするなど、他の面でバックアップしていければと考えている。

一行詩について、近年は似通っているような作品が見受けられるということも事業終了に向けた要因のひとつでもあり、一行詩を通した啓発の役割を他の方法に変えても良いのではないかと考えたところである。今年度も山形大学にお声がけしたうえで、作品の応募もいただいている。大学の授業の中でも男女共同参画に関する内容は取り入れていただいております、学生に考えていただくというきっかけは、提供できたのではないかと考えている。

(委員) 大学の授業で、最近、1分間動画を作ってみようということを取り入れている。媒体がどんどん変わってきて、パソコンは2番手3番手になりつつあり、携帯でも作ることができるようになってきている。そうなるにつれて自分たちの世代と学生たちの使っている道具がだいぶ違うということで、本当にそういった中でどのようにまた考えていけばいいのか、若い世代に届くということとどうしたらいいのかを考えていく必要があるのではないかと。また、紙媒体による部分的な資料を残しながらも、どのように新しく表現していくかも今後検討していただければと思う。

Women's Campus について、事業参加者の皆さんが活動を始めた、続けたというのは、市民企画講座のまた違ったバージョンと捉えている。名前が新しくなって、みんながまた違った意味で新しい気持ちで再スタートするというのも併せて知っていくというのも時には必要なと思いますので、逆に男子が入りにくいというのもあるが、また改めて、イクメン・イクジイ講座も含めて、何か良い形で活性化していただけるとありがたい。

特に学生企画講座などは、まさに男女共同参画で作っていくものになっていただければと思う。男性育休について、市長からのお祝いでだけでなく、育休を取得しやすくなったというのは本当に社会の変化の象徴的な出来事とも言えるエポック的な面があり、どのような形で変わっていくのか、その変化のときではないかと感じる。

(委員) 媒体を変えて、例えばミニムービーのようなものを作るなどはすごく良いと思った。

今、AIで何でも作れてしまうので、「男女共同参画 一行詩」などと入力すると、相当数の作品もできてしまうだろうし、標語の募集をしたら、同じような作品が同時期に受賞し、受賞者に尋ねたところ、AIで作りましたなどという内容が先日放送されており、標語や一行詩などは個人的には時代の流れとともに限界ではないかと感じている。人間が作れる何かというかそういうものを時代に合わせて変えていかなければいけないときに来ているのかと思った。

(委員) 予算がなく事業終了に至ったのか。

(事務局) 委員長がおっしゃった通り、若い世代に届けるためにどうしたら良いのかなど、例えば学生による講座企画を新規事業として考えた中で、この事業には力をいれよう、この事業は一旦やめてみようなど、全体を考えた中でこのような結論になった。予算が削られたということではない。

(委員) 学校の外にも面白いことがいっぱいあるということを改めて感じ、一人一人の興味・関心を広げるための受け皿となるところが、こんなにたくさんあるということをうれしく思った。

それも親子で楽しめる講座や異年齢でできるものだったり、地域の方と繋がるものがあったり、みんなで子育てということが伝わってきたのが、嬉しい。

保護者が生き生きしているということはとても大事なことで、そのための企画であって、だから託児がついていると良いと思った。様々な企画があり、とても面白そうだなと思った。広報紙で講座を知る方が多いという報告もあったが、学校でも案内できるものは案内しながら、つないでいくことができればと思った。

また、SUKSKとの連携もとても広がっているのではないかと考えている。教職員の健康増進のために、校長会の中でも、養護教諭部会からおすすめのSUKSKの取り組みについて提案されるなど、様々なところで広がりを見せていると思った。

以上です。

(事務局) 今後とも、子どもたちはこういうニーズがあるからこういう事業をしてみたいかなど意見をお伺いしたいと思う。

(委員) 学校における働き方改革と学校行事について、今年度から運動会など土曜日に行っていたものが平日に変わったということを知り、先生方にとってはとても良いことだとは思いますが、一方で保護者は仕事を休んで参加するしかないと思った。学校の現場ではどのようにとらえているのか伺いたい。

- (委員) 学校の地域性や考え方で対応が異なると思っている。
実際、運動会に地域の方やおじいちゃんおばあちゃん、あと兄弟にも見に来て欲しいという思いがあり、土曜日に開催している学校もある。
また、子供たちの習い事関係が土日であり、ずっと頑張ってきた子供たちが、その一番の発表のときに大会を選ぶのか、学校の運動会を選ぶのかということも、特に秋のシーズンが多く見受けられるので、そういったことも背景にはあるのではと考えている。
教員の働き方改革、その1点だけではなくて、子供の行事参加のことも含めて、それぞれの学校の実情に合わせて、変わってきているところもあるのではないかととらえている。
- (委員) 実際、子供が6年生の時にスポ少の監督から、抜ければ困ると言われ、運動会に出られなかったことを思い出した。教育の現場では議論されていることがよくわかった。
- (委員) 紙おむつの持ち帰りについて、国会議員になられた方が、そのような制度を変えたいということで当選して変えたという話を聞いた。山形市の場合、まだおむつは自宅にお持ち帰りくださいというところがあり、おかしいと思っているが、わかる範囲で教えていただきたい。
- (事務局) イベント開催時に、例えば利用者のお子さんが出したおむつをごみとしてイベント主催者が処分するのかまでは把握していない。また、おむつの持ち帰りの有無の義務化の通知も現状ない。
- (委員) 制度は徐々に浸透していく面もあることから、今後の状況について注視していただければと思う。いいご提案だと思う。
- (委員) 一企業目線からにはなるが、自分の事業、自分の仕事に追われ、なかなか他のところに目をやれないという企業、特に飲食業の方に多いと個人的に思っている。そのような中でも一企業、地域の企業、地域の一員である企業という立場でもあるので、企業単位でのご協力や、参加するだけでも協力につながることもあると思うので、情報提供を継続してお願いしたい。
先日、次年度の自主企画講座を予定している一般社団法人が行った火災予防についての講演を聞き、企業としては、火災予防も含め、そういった今後起こる前に何かを防ぐという意味で、よく勉強しなければならないと思い聞いていた。引き続き興味のある事業を実施していただきたいと思う。また、手伝えることはぜひ事業を通して、もしくは別の形で手伝っていきたい。
- (事務局) 企業との連携や企業のメリットになることを、男女共同参画センターとしてできないかと常々考えておりますので、今後ともいろいろアドバイスいただければと思う。また、こちらの事業につきましても、委員を通して周知にもご協力をお願いしたい。